平成 26 年度

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援研究事業

成果報告書（概要版）

実施機関名（　　香川県　　）

1．テーマ

特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり
～すべての子どもに「分かる」「できる」授業の工夫と一人一人の教育的ニーズに応じた支援の工夫～

2．問題意識・提案背景

本県において平成 24 年度に実施した「通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に関する調査」によると，公立の小中学校において，特別な支援を必要とする児童生徒が 7.1%程度在籍していることが分かった。学校現場においては,「分かる」「できる」授業の工夫など，特別支援教育の視点を取り入れた教育活動に取り組む学校が増えてきているが,児童生徒の状態のみとりや一斉指導の中での配慮の工夫，個別指導の時間設定の工夫などに苦慮していると考えられる。

そこで，発達障害支援アドバーザーを地域の相談センター（特別支援学校に設置）に配置して，地域のセンター的機能の一環として専門的立場から指導助言を行い，一斉指導における指導方法の工夫や一人一人の教育的ニーズに応じた指導･支援の在り方等について研究することで，特別支援教育のさらなる充実を図ることとした。

3．指定校について

（小学校）　　平成２６年１１月１日現在

指定校名：東かがわ市立白鳥小学校												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	28	1	19	1	41	2	21	1	23	1	27	1
特別支援学級	1		0		0		1		1		1	
通級による指導の対象者数	0		0		0		0		0		0	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー		その他	計
教職員数	1	1	11	1	1	0	2	4	0		0	21

（中学校）

指定校名：高松市立香東中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	221		6		227		6		224	6	
特別支援学級	2				4				3		
通級による指導の対象者数	0				0				0		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	2	32	1	4	1	2	1	1	1	46

指定校名：琴平町立琴平中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	75		2		73		2		85	3	
特別支援学級	1				0				1		
通級による指導の対象者数	0				0				0		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	2	19	1	2	1	1	1	1	1	30

指定校名：観音寺市立観音寺中学校											
	第1学年				第2学年				第3学年		
	生徒数		学級数		生徒数		学級数		生徒数	学級数	
通常の学級	110		4		123		4		133	4	
特別支援学級	4				1				4		
通級による指導の対象者数	0				0				0		
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計
教職員数	1	2	24	1	3	1	2	3	1	2	40

4．指定校における取組概要

発達障害支援アドバイザーの専門性を活かし，通常の学級の授業を参観して，一斉授業における指導方法の工夫や，一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方等について教員に対して助言を行い，改善を行った。

一斉授業における指導方法の工夫については，県教育委員会作成の「特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト」や，指定校で作成した「授業参観チェックシート」等を活用して，どの子にも「分かる」「できる」授業の観点で授業を参観し，それをもとに授業者に助言を行ったり，シートを渡したりすることで改善を図った。担任だけでなく，特別支援教育支援員や少人数加配教員等に対しても助言を行った。また，校内研究授業の際には，授業後の討議にも参加し，全教職員に対して指導助言や講話等を行った。

一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の在り方については，県教育委員会作成の「実態把握チェックシート」の活用による実態把握や，校内支援委員会やケース会への参加，スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー等の関係者との協議等を通じて，具体的な指導方法等についての助言や，「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成への助言等を行った。

5. 主な成果

小・中学校指定校４校での取組をもとに，主に一斉授業における指導・支援の工夫について検討することができた。そして，県教育委員会作成の「特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリスト」の項目に沿って，指定校での実践において有効であった指導・支援についてまとめ，実践事例集「特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり事例集Ⅰ～どの子にとっても「分かる」「できる」授業の工夫～」を作成し，県内の各学校へ配付した。また，校内研修において，特別支援教育コーディネーターを中心として全教職員で研修するための資料として，同様の内容をプレゼンテーションソフトで作成した校内研修資料も各学校へ配付した。これらの資料を配付することで，指定校の実践を県内の他の学校へも発信することができた。

また，この研究において，「どの子にとっても『分かる』『できる』授業づくり」の視点で授業を参観する際のチェックシートも開発され，授業改善に効果的であった。特に，若年教員へのサポートに有効であったという各指定校からの報告があり，今後改善を加えて，県内の学校にも広げていくことを検討している。

6. 今後の課題と対応

今研究で，指定校での実践をもとに，通常の学級における「どの子にとっても『分かる』『できる』授業づくり」のための視点を整理し，県内の学校へ発信することができた。今後も引き続き研究に取り組み，有効である指導・支援について検討するとともに，授業チェックシート等の改善により，各学校において，教員，特に若年教員が授業づくり，授業改善に取り組む際のモデルを示していく。

通常の学級において，「どの子にとっても『分かる』『できる』授業づくり」を行ったとしても，さらに個別的な支援や配慮が必要な児童生徒もいると考えられる。今年度，一人一人の教育的ニーズに応じた個別指導についても研究してきたが，集団学習の中での個別的な配慮や放課後等に取り出しての個別指導においては，本人が抵抗感を抱くケースもあり，十分に進んでいない現状にある。また，個別的な配慮を行うためには，学校全体としての体制を整えていくことが必要であり，そのための課題は，小学校段階と中学校段階では異なる部分もあると考えられる。

そこで，今研究の成果をもとに，さらに小学校段階と中学校段階での通常の学級における集団の中での個別的な支援の在り方や校内体制づくり等について研究を深めていき，有効である指導の方法や支援や配慮の在り方について明らかにする。

7. 問い合わせ先

組織名：

(1) 担当部署　香川県教育委員会事務局特別支援教育課

(2) 所在地　香川県高松市天神前６番１号

(3) 電話番号　０８７－８３２－３７５７

(4) FAX 番号　０８７－８０６－０２３２

(5) メールアドレス　ak1394@pref.kagawa.lg.jp